

様式 1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和 5 年 8 月 21 日

東員町議会議長

山本陽一郎 様

東員町議会教育民生常任委員会

委員長 川瀬孝代

研 修 報 告 書

研修期間	令和 5 年 7 月 12 日（ 水 ） ～ 7 月 13 日（ 木 ）【 2 日間】
研修（視察）先	徳島県 上勝町「パンゲアフィールド」 徳島県 徳島県庁
目的（テーマ等）	上勝町：ゼロ・ウェイストの取り組みについて 徳島県庁：健康ポイントアプリについて
資料添付の有無	有 ・ ○ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

教育民生常任委員会 視察研修報告

- 1.日程 令和5年7月12日(水)・令和5年7月13日(木)
- 2.視察先 徳島県上勝町
徳島県庁
- 3.目的 ゼロ・ウェイストの取り組み
とくしま健康ポイントアプリの取り組み
- 4.視察委員 委員長 川瀬孝代 副委員長 三林浩
委員 三宅耕三 島田正彦 伊藤治雄 中村等 広田久男

『上勝町』

町の概要と「ゼロ・ウェイスト」の取り組みをビデオで説明を受けました。

上勝町は、2003年の「ゼロ・ウェイスト宣言」を行い20年経ちました。

リサイクル率80%を達成するなど、小さな町ではありますが、日本で一番エコな町として注目されています。

「ゼロ・ウェイスト」は物の無駄遣いをしないで、リサイクル・リユースを進め焼却・埋め立てる・有害なごみを無くしていこうという理念のもと「無駄・浪費・ごみを無くす」という意味です。

上勝町は、この宣言をしてごみ対策に取り組むまではごみは焼く、埋めるなどの自家処理に委ねられていました。ダム建設を機に河川などへの投機防止が徹底され、地域の残土処理場に集め、露天焼却処理が行われていました。

その後、環境への配慮や法整備により平成5年に「上勝町リサイクルタウン計画」を策定し、可燃ごみのうち生ごみの削減など経緯があります。

町で1か所「ゼロ・ウェイストセンター(複合施設)」での取り組み

★生ごみの回収はしていません。

コンポストなどによって各家庭で処理されています。

土に戻すという利用方法で有機肥料として循環しています。

(コンポスト・電動ごみ処理機の購入補助があります)

★生ごみ以外は、「ゼロ・ウェイストセンター」に町民が自由な時間に各自で持ち込み
その場で分別をしています。

分別品は13種類・45分別で、コンテナが用意されていて、どのように処理されていく
か示されています。(ゴミの行き先・ゴミの値段)

★高齢の方で持ち込みができない場合は担当の方が月1回収集することになっています。

ゴミを資源と捉えて再利用可能なものは、必要な人のもとへ、再資源の可能なものは、業者へ流通し効率的に取り組んでいます。

【所感】

住民の協力がなければできないことと住民参加の土壌が大きく影響していると思いました。

循環型社会を大きく推進していく町であります。

運営していくために、行政・町民・企業が連携している仕組みづくりを考えていることや2030年を目標として意見を集めて、さらにゼロ・ウェイストへの取り組みに感銘しました。生ごみの削減やリサイクル・資源を有効活用する認識を持ち実行するためには、コミュニティがないといけない。コミュニティのある小さな単位で行うことが有効であると言われていました。

可燃ごみの中で、生ごみの処理はCO₂発生の削減には難しい現状がありますが、住民がごみに対しての意識改革をすることが重要です。

本町としても取り組めることがあると考えます。

担当課へ提案していくことが必要と思いました。

『徳島県庁』

健康維持と地域活性化のため、介護予防や健康づくり、ボランティアなどの活動の参加する高齢者などにポイントを付与する「健康ポイント」などの」普及が推進されています。

徳島県では、保健福祉部健康づくり課で「とくしま健康ポイント」について、県の現状と「テクとく」についての説明を受けました。

徳島県は、糖尿病死亡率が全国1位ということがあり、野菜摂取量が少ないことや健康寿命が低いことなど課題がありました。

糖尿病予防や健康づくりへの意識向上を図るために、「とくしま健康ポイントプロジェクト」を立ち上げて、とくしま健康ポイントアプリ「テクとく」を運用する事になりました。

「テクとく」とは、テクテク歩いておとくをGETするというものです。

スマートフォンアプリを活用して取り組んだことを入力して健康ポイントを獲得できるものです。ポイントを商品に交換し、地域の活性化として取り組んでいます。

民間企業を取り入れながら、とくしまウォークビズ選手権を開催し、働き盛り世代の習慣病対策としての取り組みなど工夫をしています。

【所感】

散歩をすればポイントがもらえる。ポイントをためて暮らしに張り合いを持つことはよいことだと思います。

運動など健康への習慣を身に着けることは大事なことです。

2015年に医療保険制度改革関連法の成立で、健康ポイントなどで健康づくりに関する自助努力の支援を保険者の努力義務とすることを定めています。

徳島県として、アプリの改善やさらに利用者の増加に向けて、市町村との連携で、周知・啓発に力を入れていきたいといわれていました。

本町では、三重県の「健康マイレージ」に取り組んでいます。

よく似た取り組みですが、アプリの活用は有効であり、参考になる取り組みであると思いました。担当課に提案していきたいと思います。